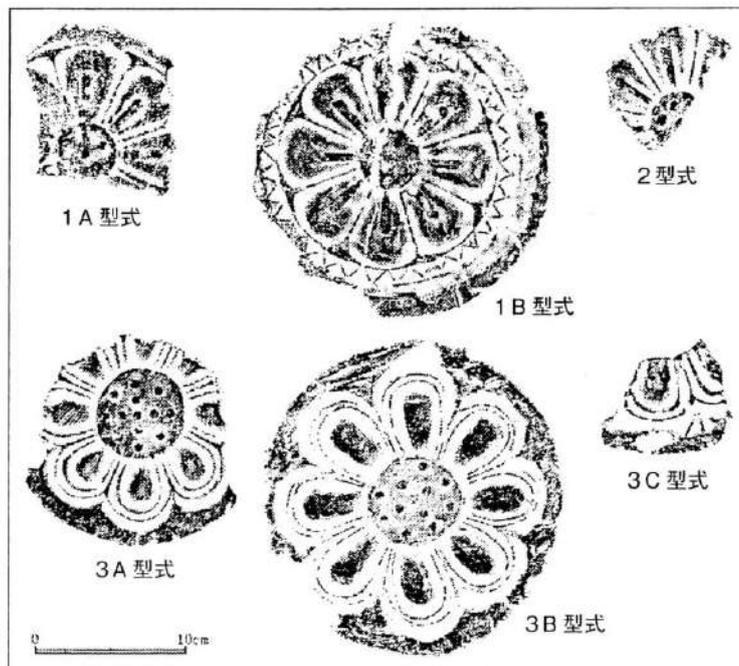
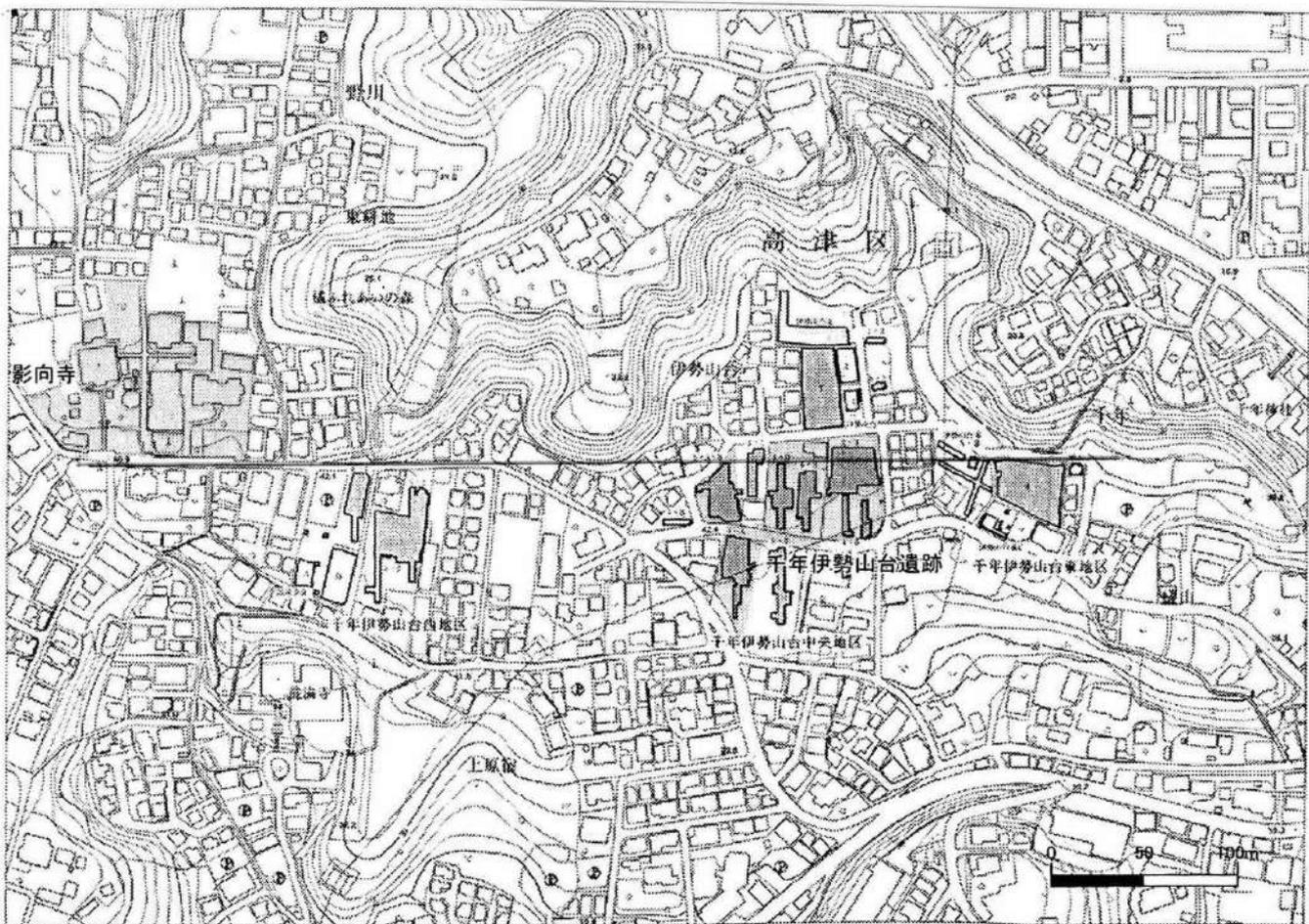




影向寺境内から採集された「都」銘文字瓦
(提供 川崎市市民ミュージアム)

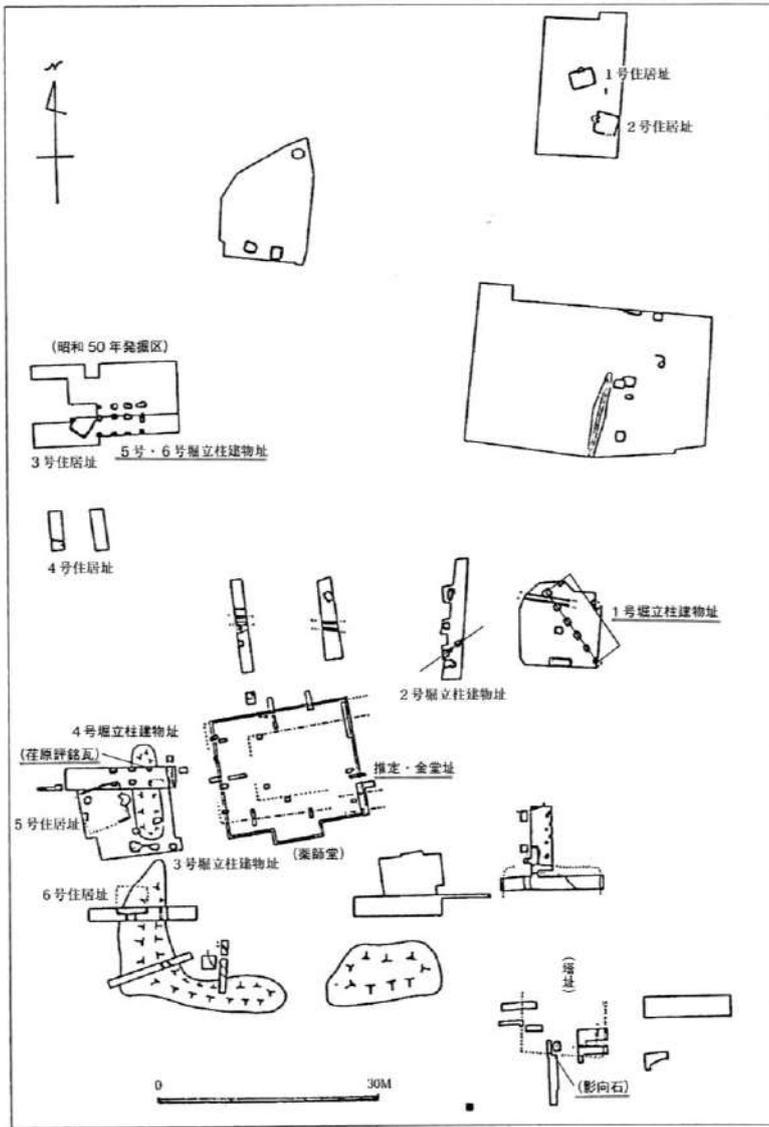


影向寺遺跡発掘の鐙瓦(軒丸瓦)の分類。

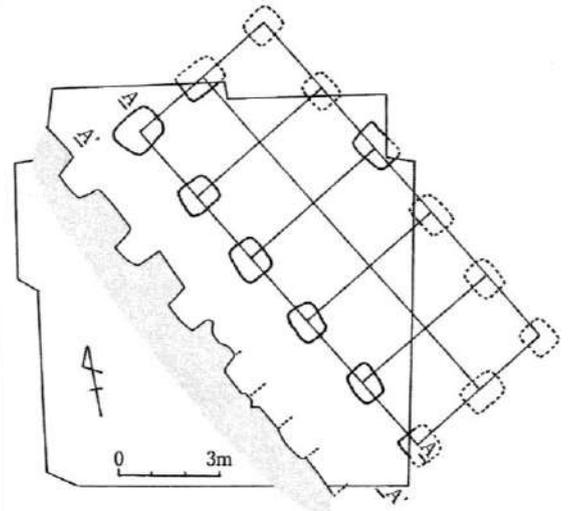


橘樹官衙遺跡群の全体図 (薄いアミ掛け部分が国史跡)

第4図

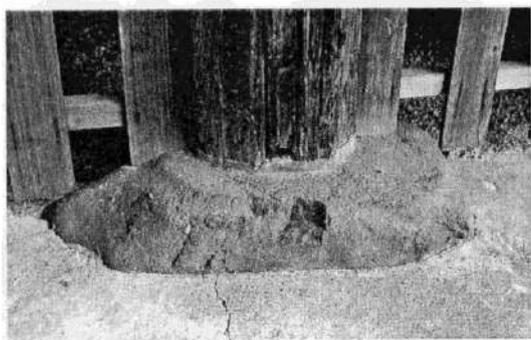


影向寺遺跡及び周辺の古代遺跡全体図



影向寺阿弥陀堂部分から発掘された1号掘立柱建物跡

第5図



円形の柱座の造り出しがある礎石

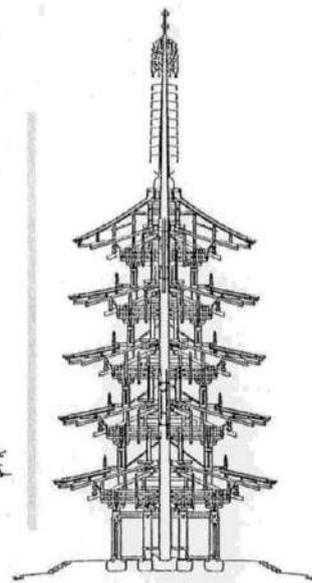
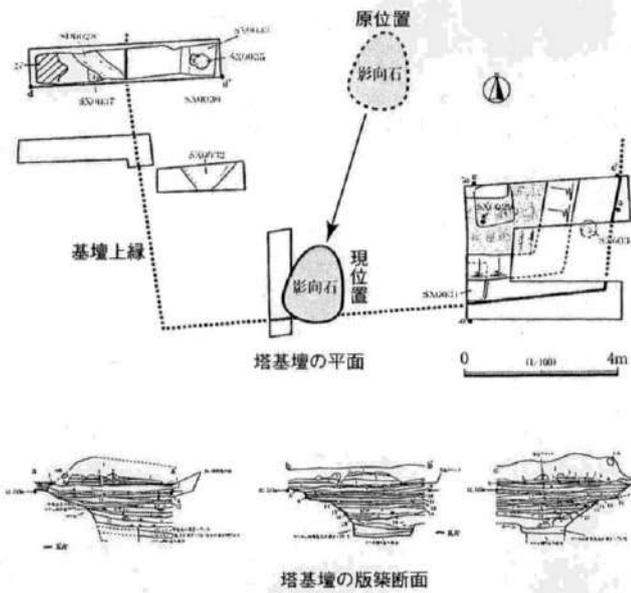


薬師堂(推定・金堂跡)下からあらわれた版築層(撮影・提供 小池汪)

第6図

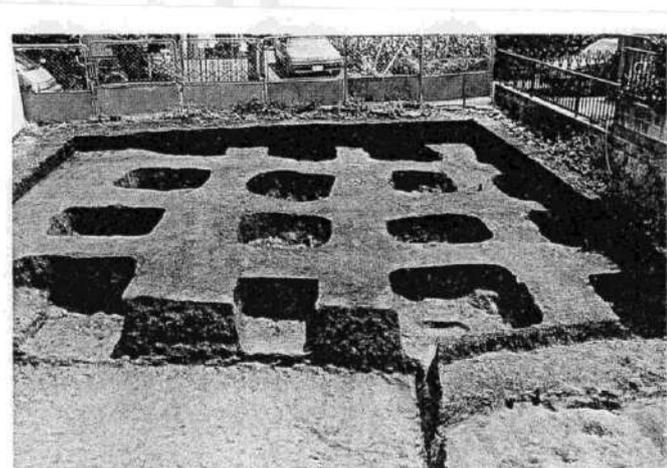
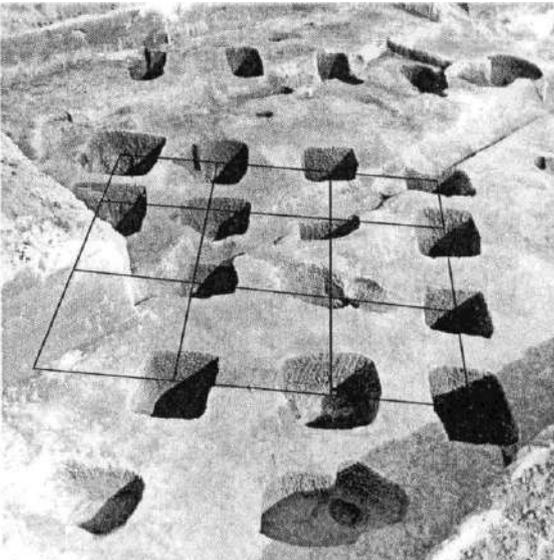


寺名のおこりとなった影向石。実際には塔の心礎石である。



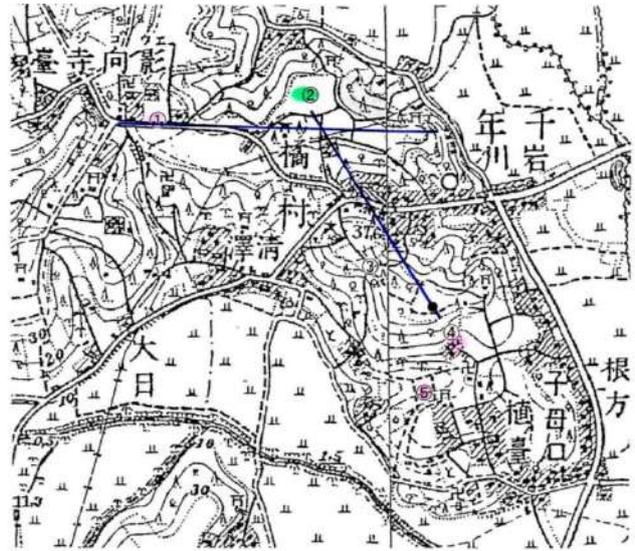
影向石（塔心礎石）の周辺（左）と醍醐寺五重塔（951年）の心柱の断面図（右）。なお、影向寺は三重塔と推測されている。

第7図



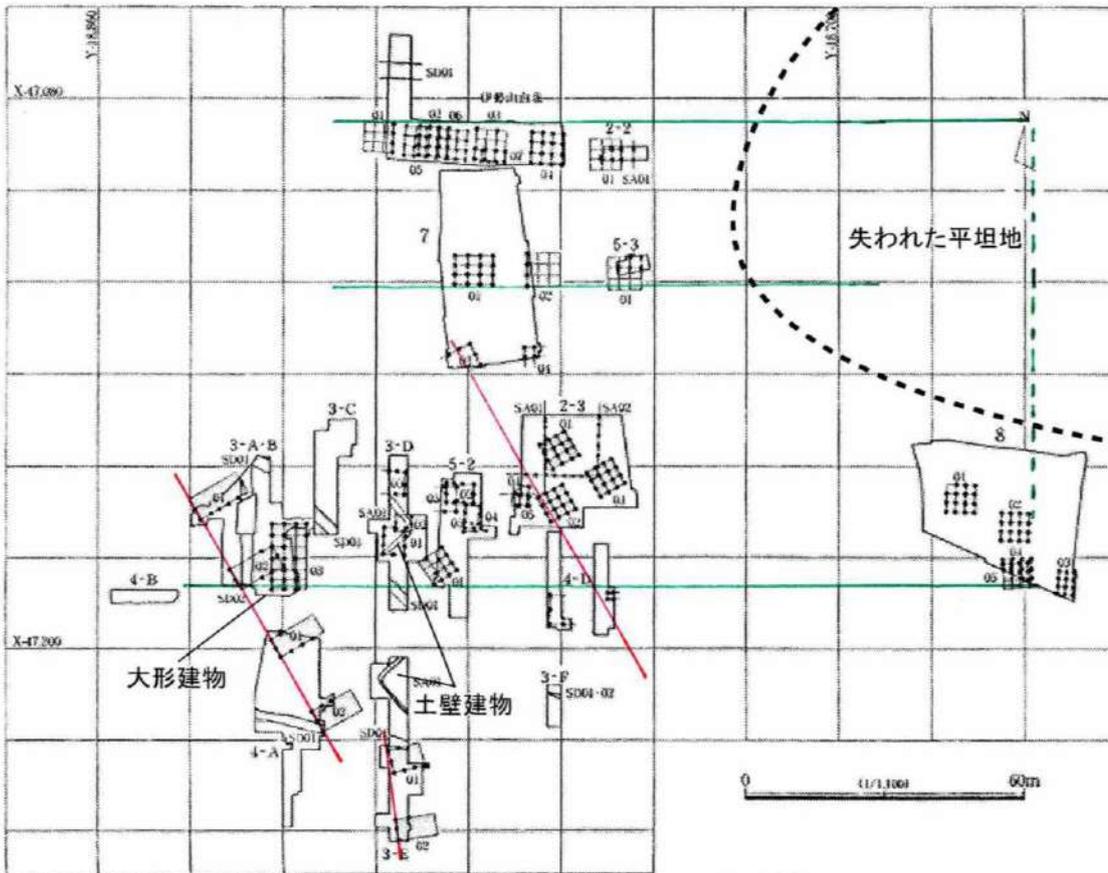
蓮乗院北遺跡（線で囲った部分が、総柱形式の掘立柱建物跡 3間（ま）×3間）

第8図



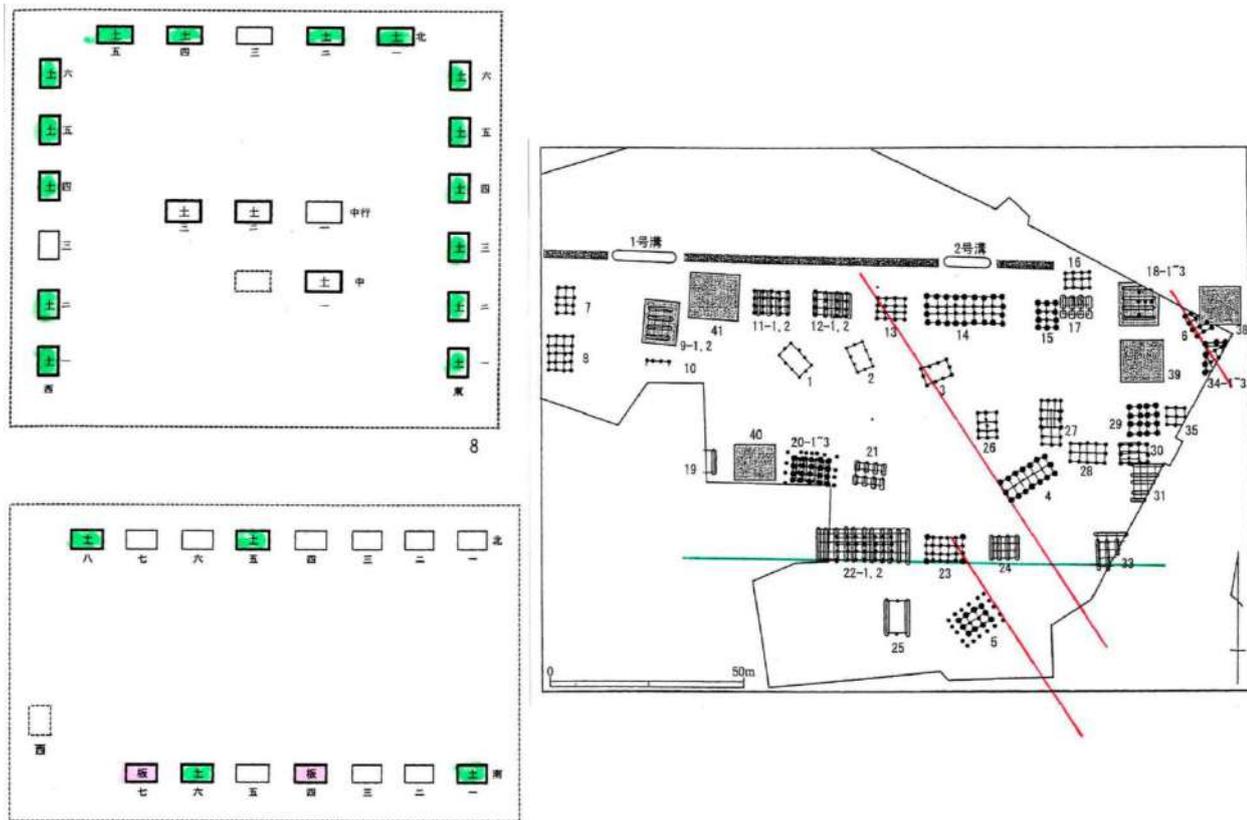
明治14年(1881)(上)と大正6年(1917)(下)の地形図。
 ①は、影向寺、②は千年伊勢山台遺跡(橘樹郡衙跡)、③は子母口富士見台の中心部(政庁跡、小高駅家推定地)、④は古代橘樹神社推定地、⑤は近世以降の橘樹神社位置。●印は子母口富士見古墳。
 (下図千年伊勢山台のアミ部分がガケ崩れした部分)

第9図

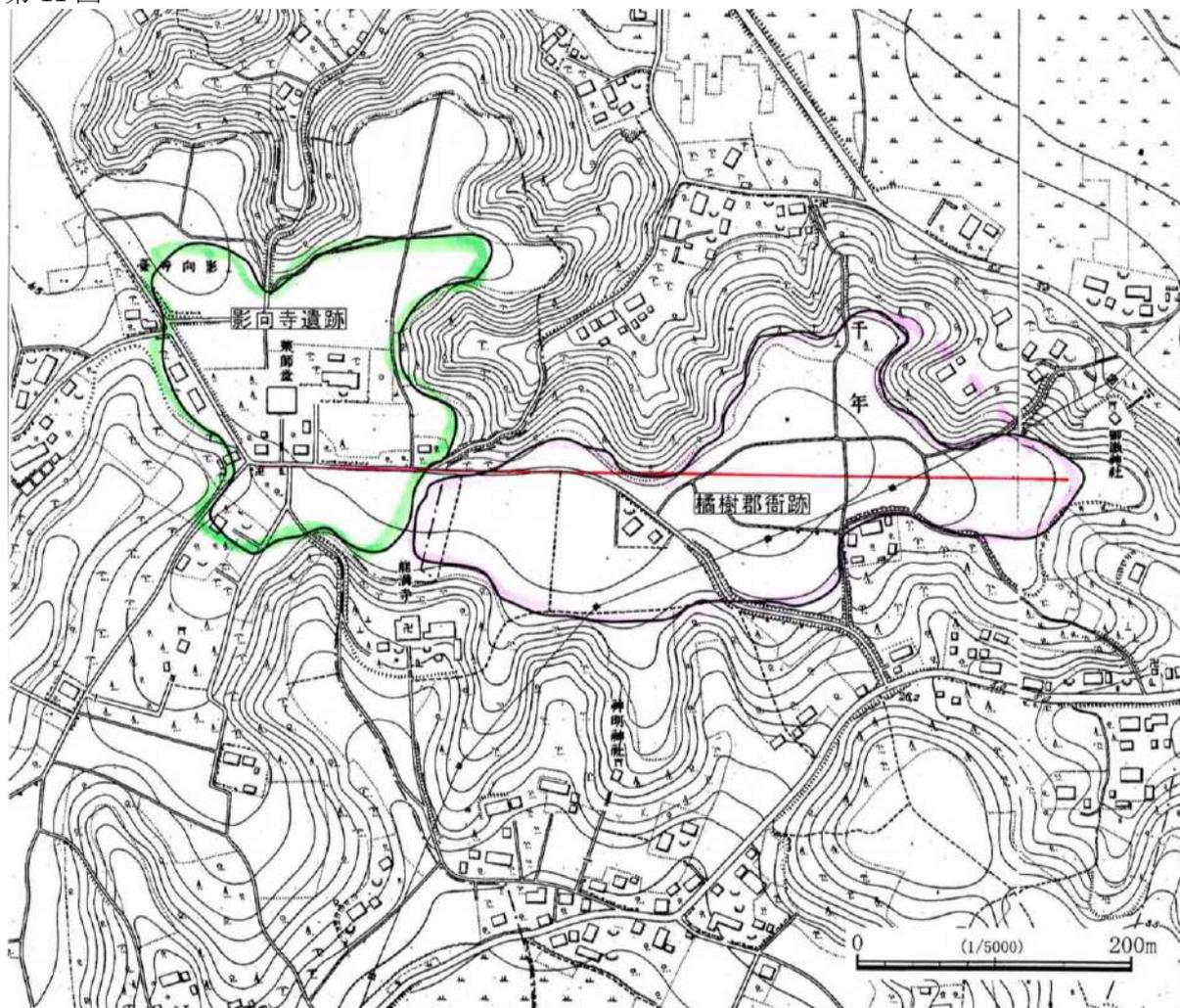


発掘調査された正倉跡の全体図
 (斜め方位の建物は、第Ⅰ期(薄いアミ)、南北主軸の建物(濃いアミ)は、第Ⅱ期。大形建物は管理棟か、法倉か。)

第10図



第11図



橘樹郡衙跡・影向寺遺跡の旧地形 (『川崎地形圖』〔川崎市1942〕に加筆)

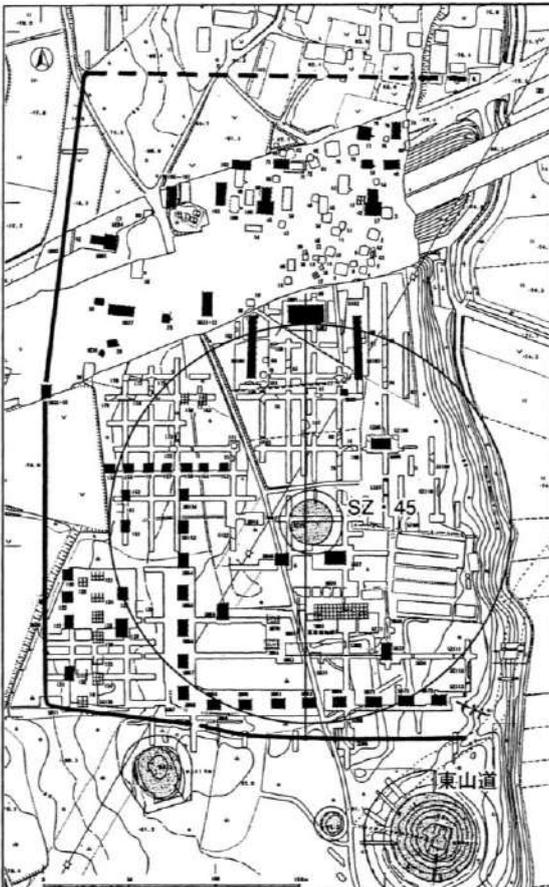
第 12 図



橋樹郡衙・古代影向寺の施設配置推定図

「倉庫令」倉とまると五十丈(約150m)の内に館等置くと得ず

第 13 図



官衙第Ⅱ期(8世紀前半)。官衙として整備充実期(西端に南北に並ぶ4軒の正倉跡は、第Ⅲ期の可能性もある)

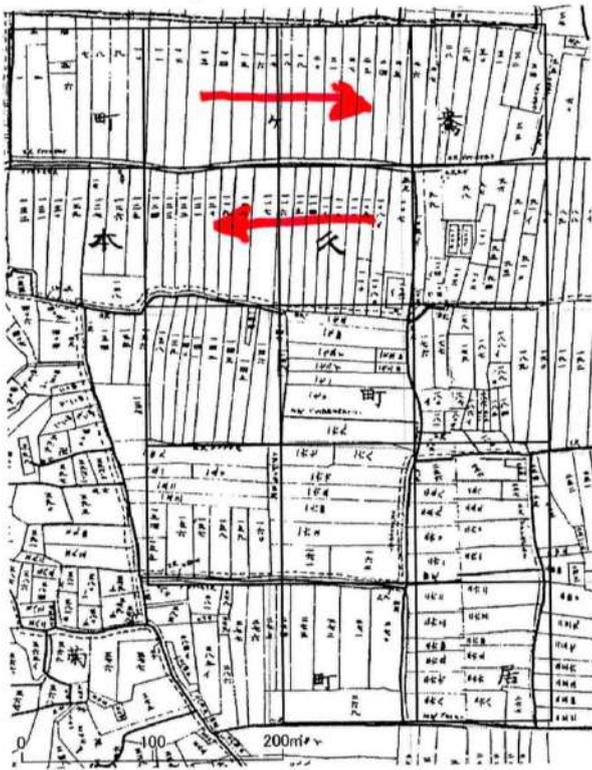


上図を基にした第Ⅱ期の復元イメージ図

上神主・茂原官衙遺跡(その2)

(上三河町・宇都宮市教育委員会資料より)

第14図

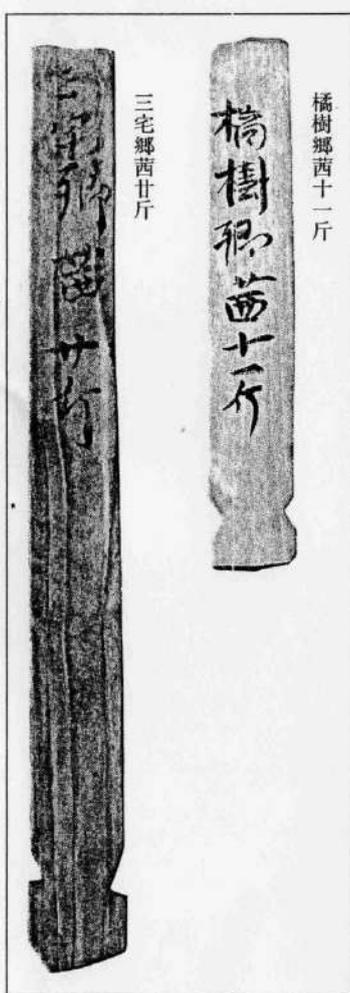


高津区久本にのこされていた条里制遺構。
1町(約109m)区画が復元できる。(大正9年製公図)



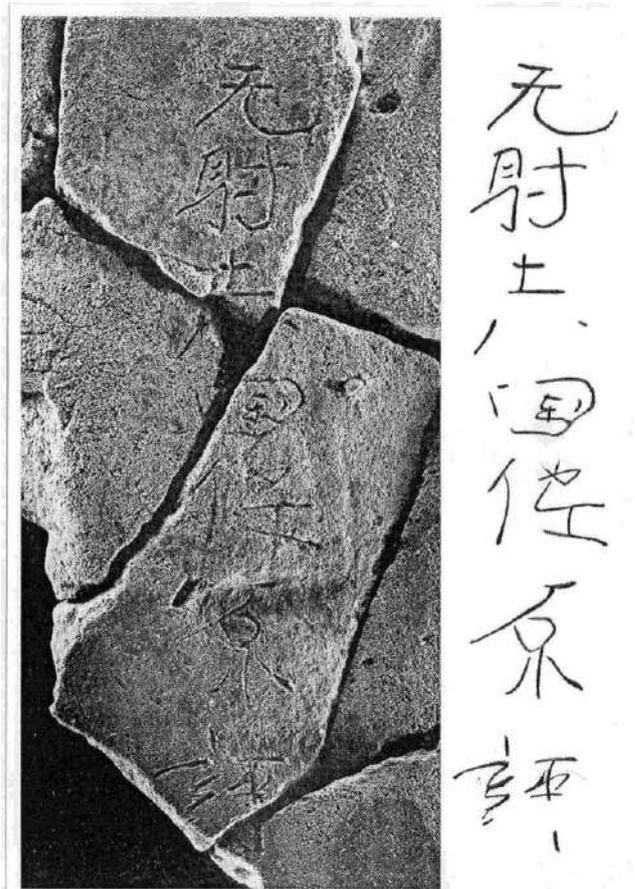
奈良県橿原市域の条里制遺構。
渡辺久雄著『条里制の研究』昭和43年 口絵写真を加工。

第15図



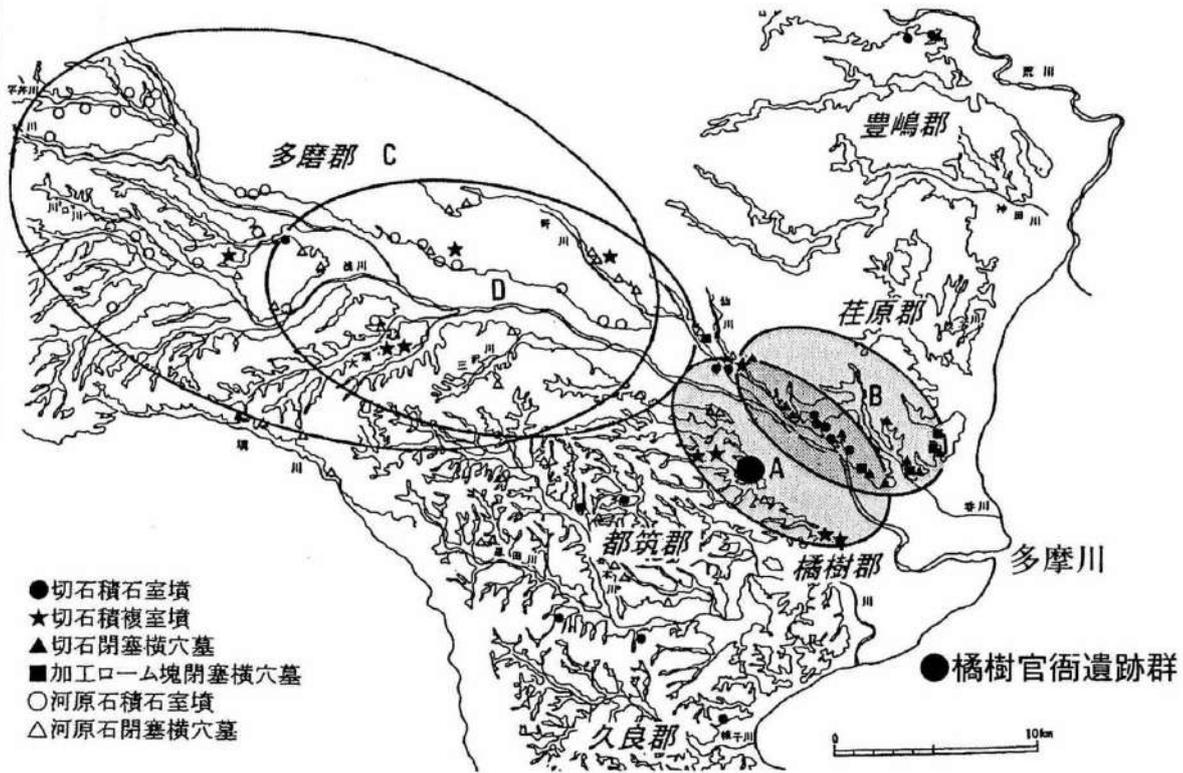
武蔵国橋樹郡の橋樹郷(右)と御宅郷(左)から平城京に貢納された西に付けられていた木簡。
『古代の役所と地域社会』図録より。筆者加工。

第16図



「无射志国荏原評」銘の文字瓦
(写真の撮影・提供、小池汪)

第 17 図



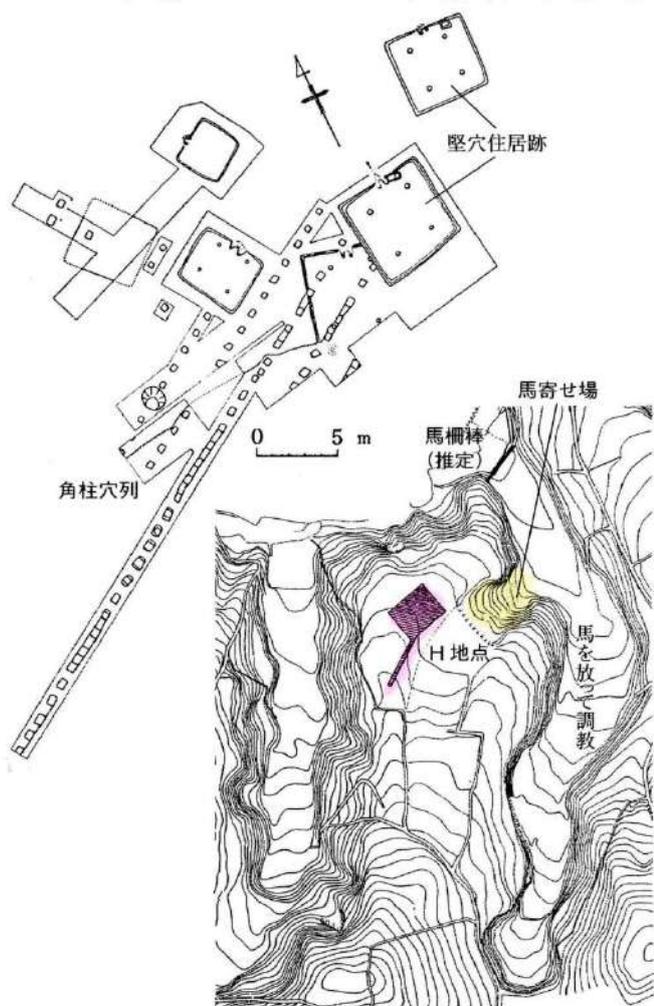
多摩川下流域における石室墳、横穴墓の特徴と橋樹官衙遺跡群（松崎論文を筆者加工）。Aゾーンの橋樹郡（評）とBゾーンの荏原郡（評）が重さなる。

第 18 図



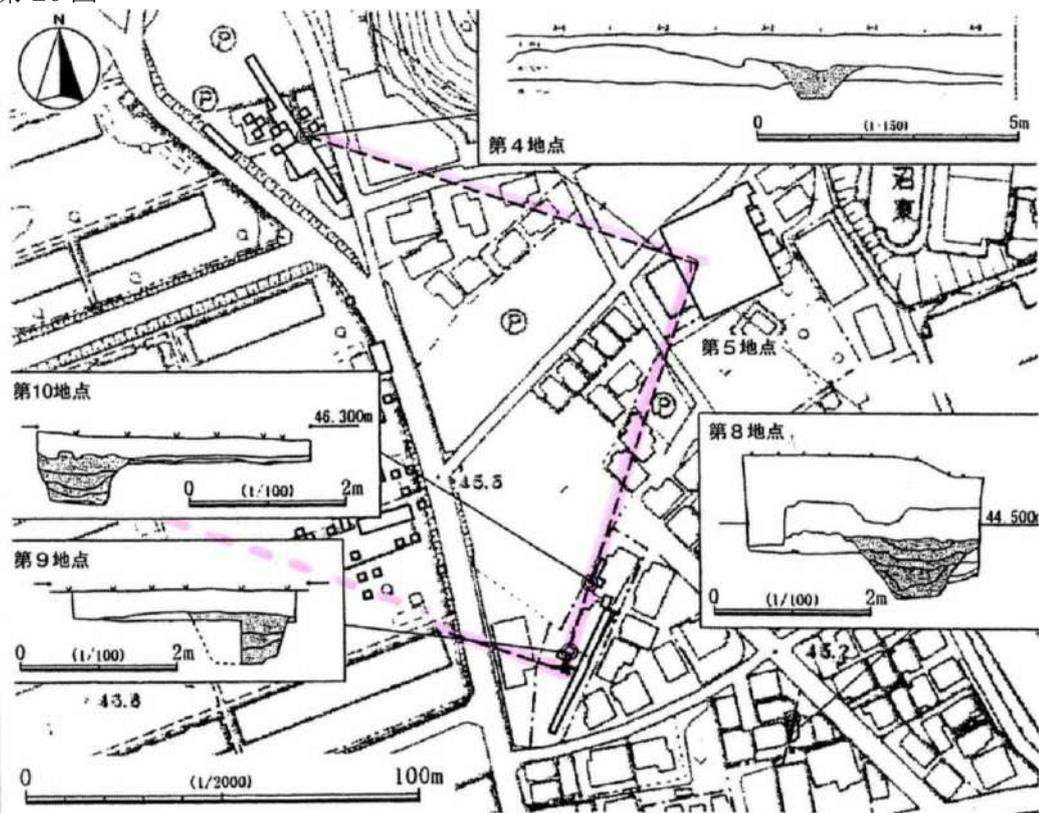
早野横穴墓の奥壁に線刻された疾駆する馬5頭（撮影・提供 小池汪）

第19図



鶴川遺跡H地点の角柱穴列(上)とH地点周辺の地形と推定・馬寄せ場(アミかけ)遺構(下)。上・下図の方角は一致している。

第20図



川崎市野川・十三菩提遺跡の方形区画溝(点線部分)

〔中右記部類〕 卷十六裏文書
宮内庁書陵部所蔵

〔中原区〕
稲毛本御庄

注進 承安元年田数檢注牧目録事

合田貳佰陸拾〇町捌段佰捌拾歩
〔六〕〔參九〕〔八〕

見作田 〔貳佰陸拾貳〕 町陸段佰捌十歩

荒田壹町貳〇〔段〕

本田貳佰陸町陸段參佰〇〔歩〕 平治元年御檢注定、

除田拾漆町伍段 〔七〕

新御願寺免五町 春日新宮免二町

中司御佃三町〇段 〔五〕 下司免二町五段

兵仕免一町五段 夫領免一町

皮古造免五段 井料田一町五段

定田佰捌拾玖町五段 〔九〕

所当御年貢八丈絹參佰漆拾玖疋 町別式疋代

新田伍拾伍町陸段貳〇肆拾歩 〔佰〕〔四〕 古作廿町一段半 今年新田卅五町五段六十歩

除田拾參町捌 〔小〕〔中原区〕

稲毛郷鎮守兩所六段 〔中原区〕
田中郷鎮守三段 井田郷鎮守三〇〔段〕
神田一町二段 〔小〕〔中原区〕

牧か牧か

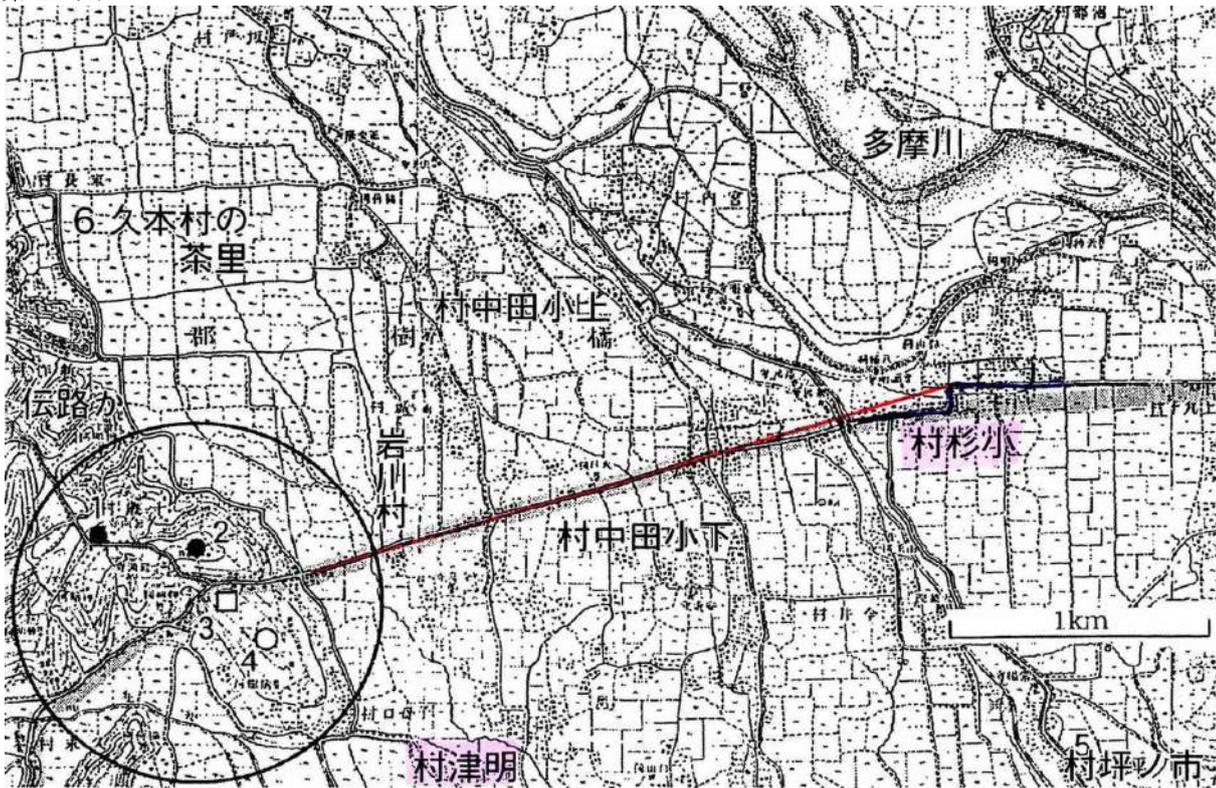
史料1 稲毛本庄檢注目録



大阪府八尾市城山遺跡から発掘された馬骨。アミ掛けの部分が半裁されている。(松井論文より)

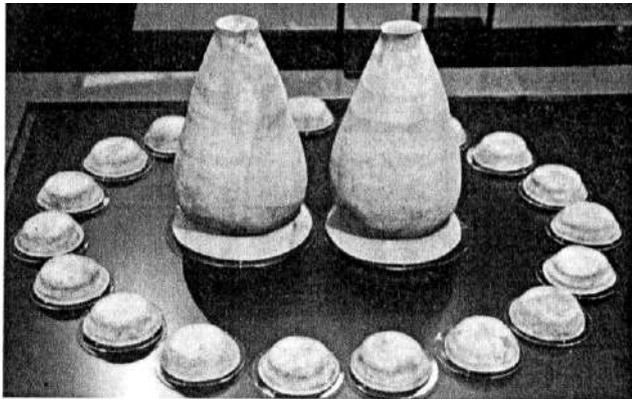
『粉河寺縁起』に描かれた鹿皮を乾かす絵図。(『新版・絵巻物による日本学民生活絵引』第3巻より)

第 23 図

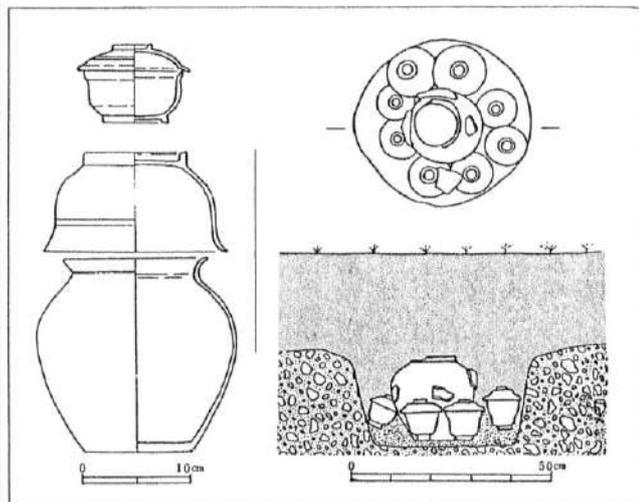


古代橋樹官衙遺跡群の政治・宗教上の舞台と推定・東海道筋（アミ部分）。
 1. 影向寺遺跡、2. 郡の正倉院、3. 推定・小高駅家、4. 推定・郡庁と古代橋樹神社、5. 条里「市ノ坪」村の所在地、6. 久本村の条里

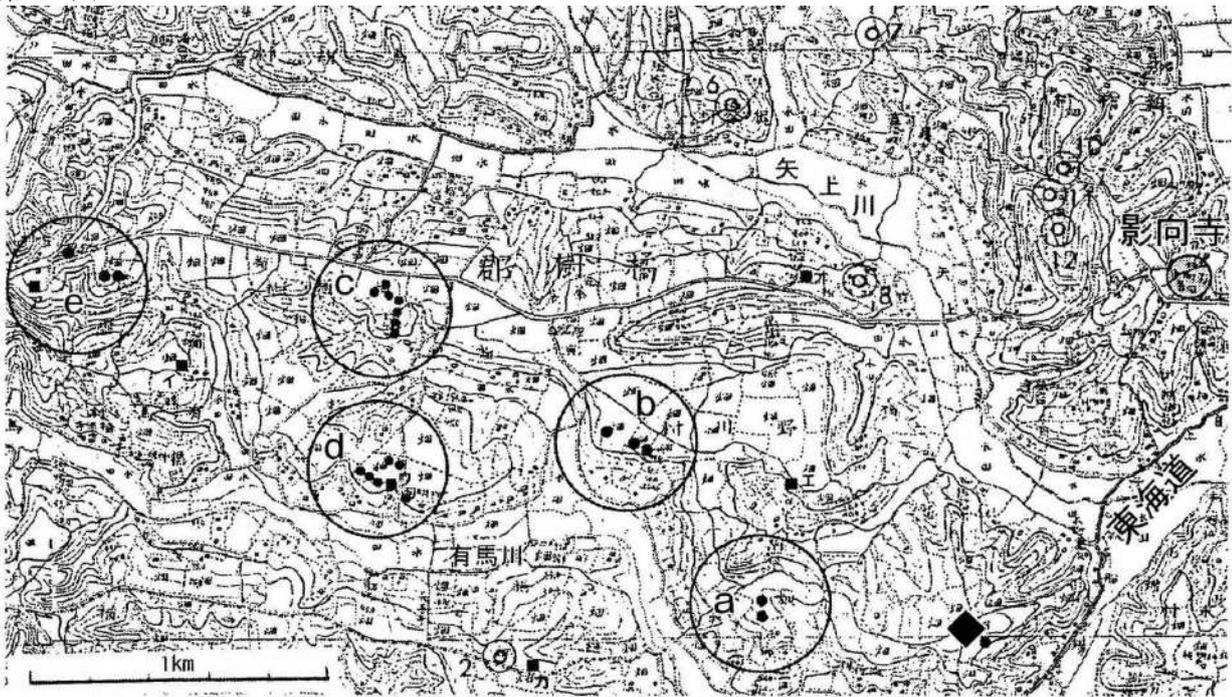
第 24 図



有馬後谷戸古墓発見時の復元状況（川崎市市民ミュージアム）



韓国扶余中井里唐山遺跡・第2号墓の遺構（右）と遺物（左）
 埋葬様式が類似する川崎（上）と韓国（下）の火葬墓



矢上川・有馬川流域の火葬墓 (●) と高塚古墳 (◎) など。〔火葬墓群〕 a・野川南耕地群、b・野川西耕地群、c・有馬後谷戸群、d・有馬台坂上群、e・有馬入山群。〔高塚古墳〕 6・馬絹古墳、7・西福寺古墳、11と12・野川古墳。○・影向寺、◆十三菩提遺跡。

火葬墓群と高塚古墳が矢上川を挟んで対峙し、影向寺は左岸側に位置する。